

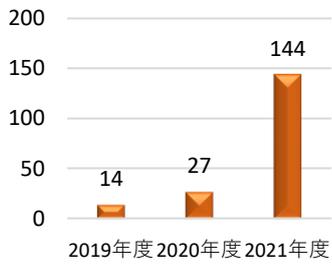
V 呼吸ケアチームおよびラピッドレスポンスチーム（RRST）



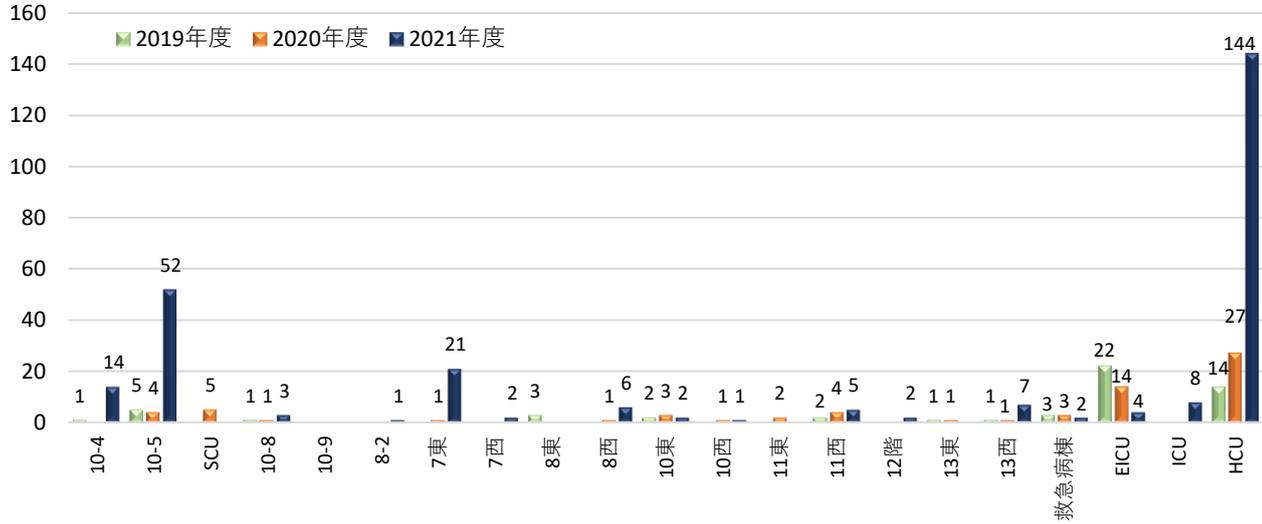
呼吸ケアチームは、医師、看護師、理学療法士（PT）、臨床工学技士（CE）、歯科衛生士（DH）のメンバーで構成されており、人工呼吸器からの離脱や人工呼吸器管理中の患者ケアに関して介入している。週に1度、チームでラウンドを行い、それぞれの立場でアドバイスを行う他、ラウンドの日以外にも困っていることやトラブルに柔軟に対応している。本院が標榜する「医療チームの推進」に関して、呼吸ケアチームはまさしくチーム医療を具現していると自負している。

RST介入件数は、年毎に増加しており、対象となった診療科は脳神経外科が最も多いが、その他の診療科も満遍なく対応している。ICUで呼吸器離脱ができず、長期人工呼吸器装着を余儀なくされた患者さんに対し、HCUから介入を開始し、離脱の可否の判断を含め、呼吸器設定調整、ポジショニング、口腔保護ケアの介入を行ってきた。今後も患者さんの呼吸管理を途切れることなく行い、安全かつ合併症のない人工呼吸管理を提供できるように尽力していきたい。

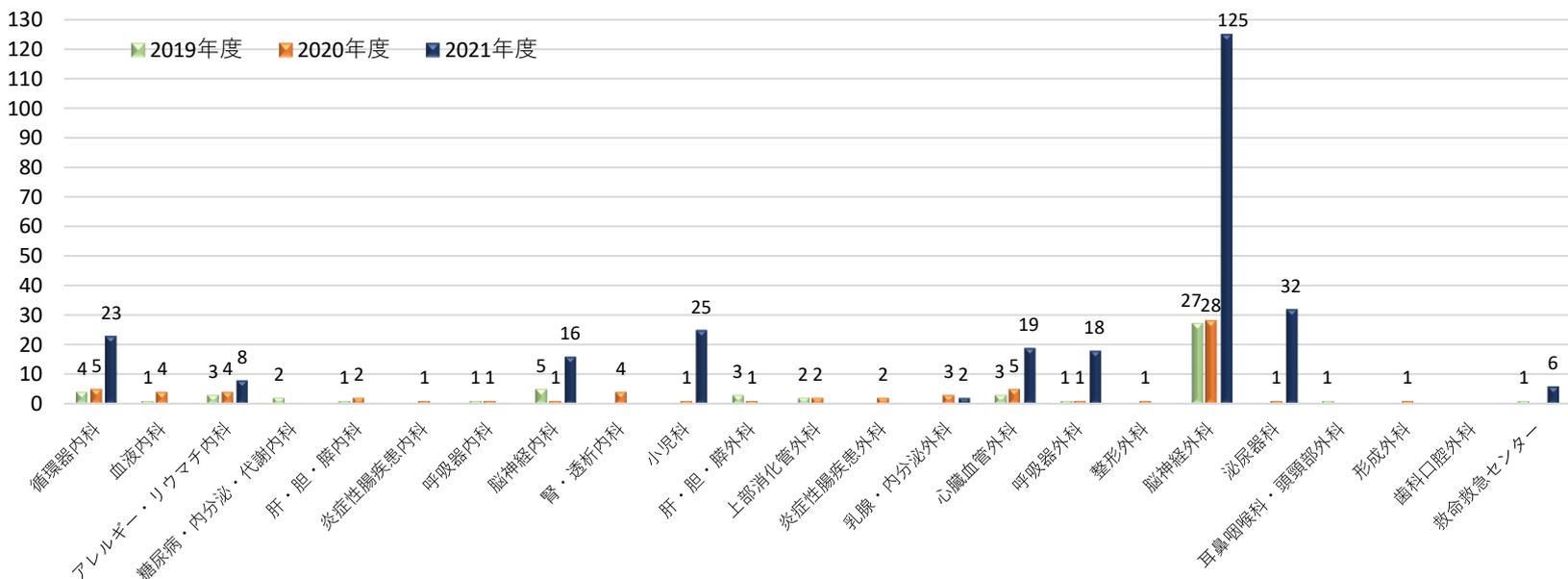
V-1 RST介入件数推移



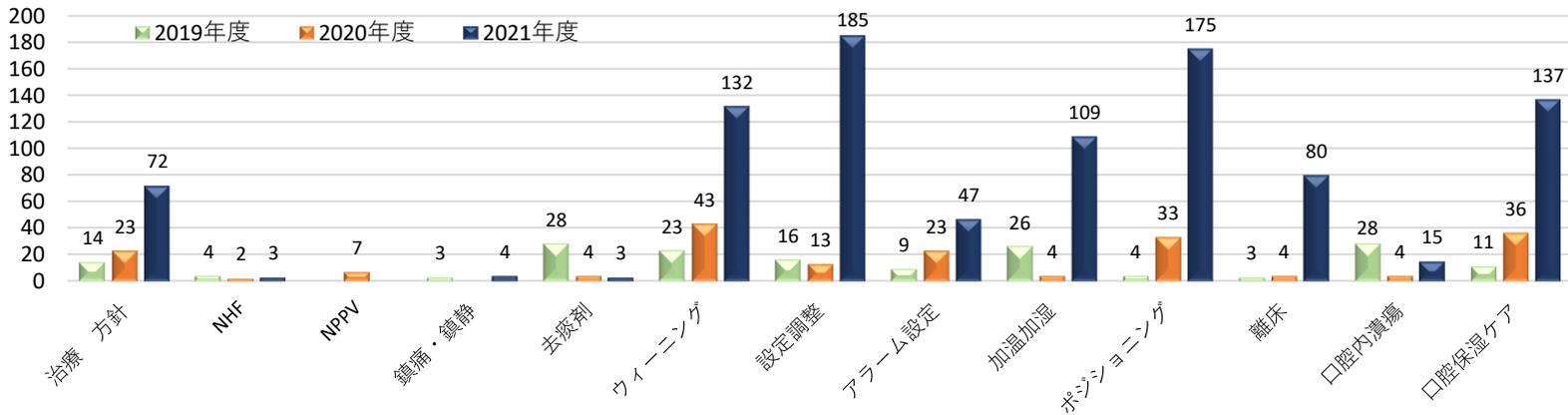
V-2 病棟別介入件数



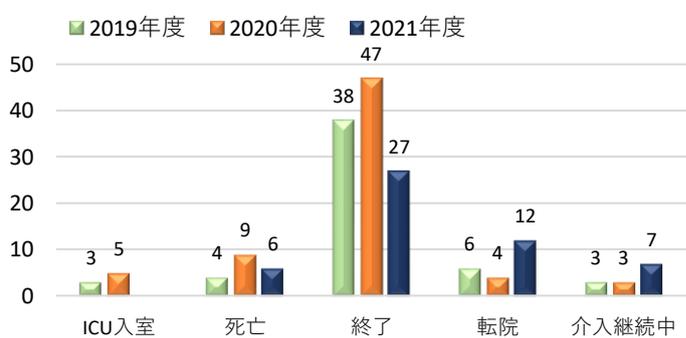
V-3 診療科別介入件数



V-4 介入目的別件数



V-5 介入転帰別件数



ラピッドレスポンスチームとは、患者さんの像帯が重症化する前にその兆候を発見し、介入するシステムであり、当院では、本活動が発足して10年が経過した。活動目的は、入院患者さんの「予期しない状態変化による院内心停止」を回避することである。

入院患者さんの予期しない院内心停止を予防するためには、患者さんの状態変化を見逃さず、医師と看護師、多職種が患者さんの状態を共有し、適切な治療・ケアを提供することが重要である。そのため、当院では病棟看護師を対象とした「気づき研修」を行い、看護師の「アセスメント力」の向上から、RRSへの連携を高めている。2021年度の介入に至った最も多い項目は全般事項であり、客観的な数値だけでなく、主観的な「気づき」からRRSを起動し、患者さんの病態の重篤化の予防につながっていると考える。

V-6 ラピッドレスポンスシステム起動基準

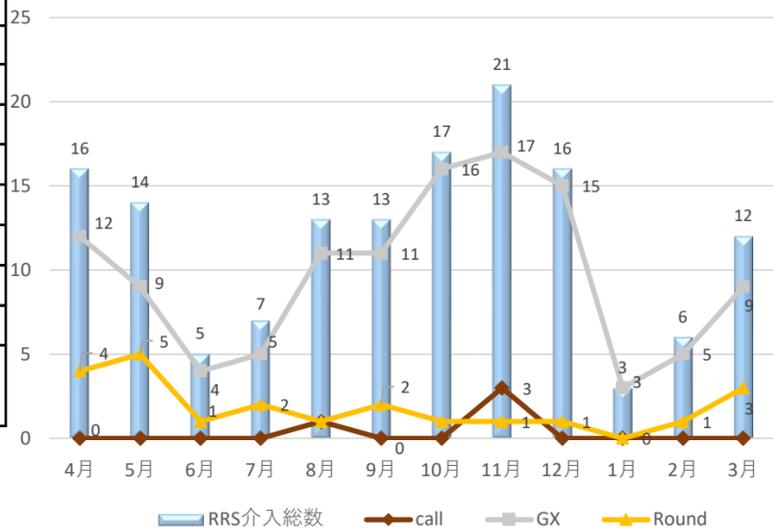
項目	内容	指標	コード
呼吸器系	新たな自発呼吸数の低下	8回/分以下または28回/分以上	Ra
	新たな酸素飽和度の低下	SpO ₂ 90%未満	Rb
循環系	新たな収縮期血圧の変化	90mmHg未満	Ca
	新たな心拍数の変化	40回/分以下または130回/分	Cb
泌尿系	新たな尿量の低下	50ml/4H以下	Ua
神経系	新たな意識レベルの変化	GCS・JCSの明らかな低下	Na
		麻痺の出現	Nb
		痙攣の出現	Nc
全般事項	患者に何か気がかりなことがある	例：チアノーゼ、ADLの低下、予想範囲外の吐・下血など	Ga

※14歳以下は対象外

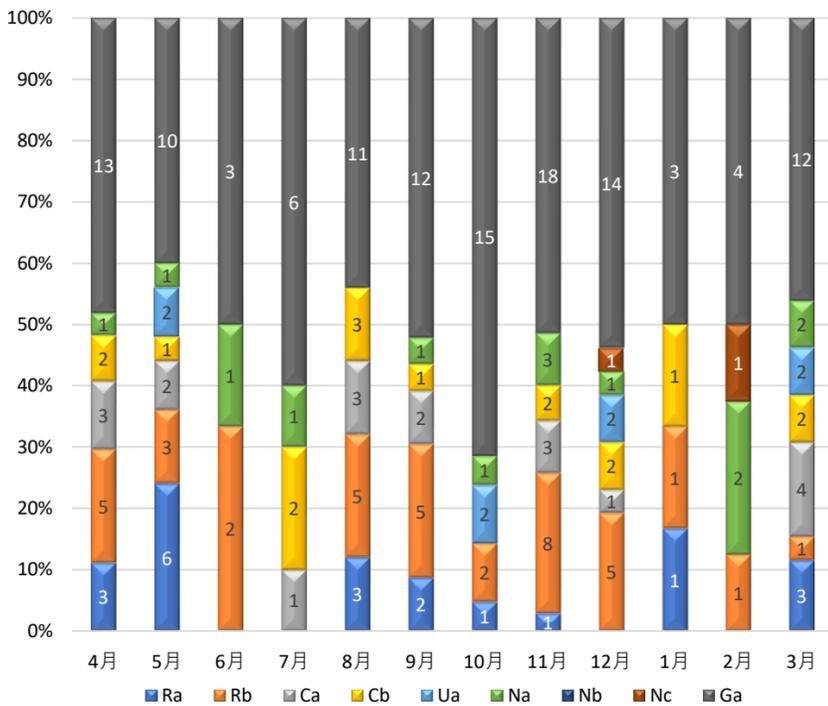
※コール対応は平日8:30~17:00

※ケアに困っているなども気軽にご相談ください

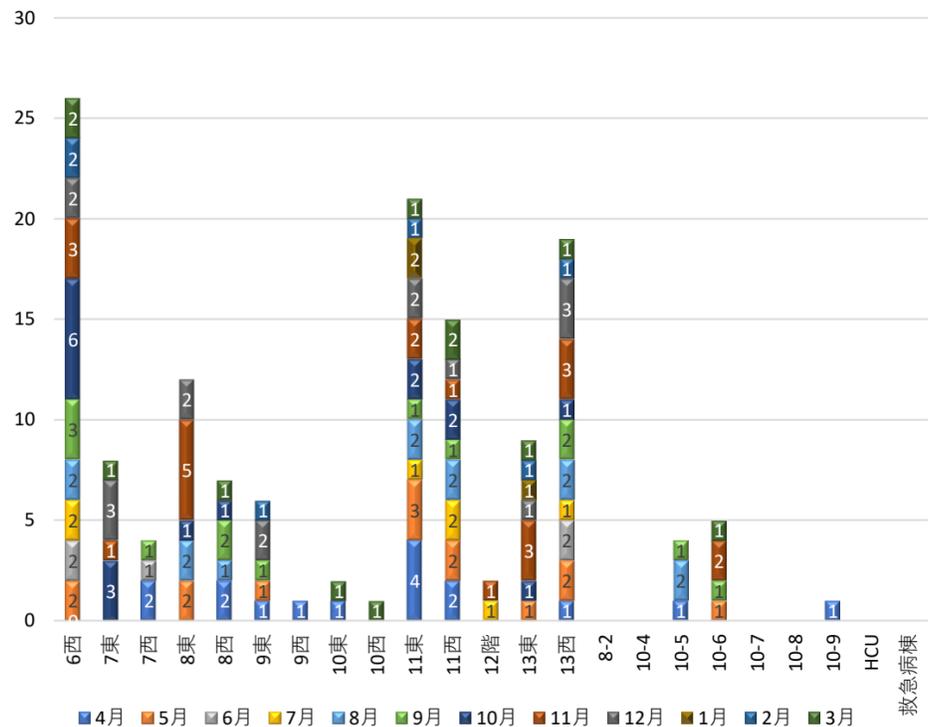
V-7 2021年度RRS介入総数と介入経路（合計143件）



V-8 2021年度介入に至ったコード 月別の構成比率（合計238件）



V-9 2021年度病棟別介入件数（合計143件）



V-10 2021年度診療科別介入件数（合計143件）

